

クマノザクラの特徴と増殖技術の検討

林業試験場 経営環境部 的場 彬通

〔はじめに〕

クマノザクラは実生からの育成が比較的容易であるが、他のサクラ類と交雑することが確認されている。交雑した実生から育成した苗木が自生地域に拡大してしまうと、クマノザクラの地域性や固有性が損なわれる危険性があるため、早急に親木の特徴を受け継ぐクローン増殖手法の確立が必要となる。今回は条件を変えて挿し木を行い、挿し付け時期による発根率と、水やり頻度による発根率の違いを明らかにすることを目的に試験を行った。

〔材料と方法〕

県内5地域で探索した優良と思われる形質を持った個体を選抜し、穂木を採取して挿し木試験を行った。対照としてヤマザクラ、ソメイヨシノも同様に挿し付けた。

挿し付け時期による発根率の違いを見るために 休眠枝挿し（2月挿し）、緑枝挿し（4月、7月挿し）を行い、発根の有無を確認した。また、水やり頻度による発根率の違いを明らかにするため、4月挿しに毎日灌水試験区、4月挿しと5月挿しに隔日灌水試験区（夏期は毎日灌水）を設定し、発根率の違いを確認した。

〔結果・考察〕

(1)クマノザクラの特徴

クマノザクラの開花時期は早く、3月上旬～下旬に開花する。花はうすいピンク色で葉よりも早く開き、一つの花序に1～2個の花を付ける。また、葉は細くて小さく、ヤマザクラや‘染井吉野’に比べて明らかに一回り小さい葉を付ける。

(2)クマノザクラ挿し木試験

- ・挿し木の時期を比較すると、那智勝浦を除いて、休眠枝挿し（2月挿し）に比べ、緑枝挿し（4月挿し、7月挿し）の発根率がやや高かった（図1）。また、クマノザクラの発根率は、母樹による違いがみられた。
- ・水やりの頻度で比較すると、5月挿しで隔日灌水した方が4月挿し（毎日灌水、隔日灌水）よりも発根率が高い傾向がみられた（図2）。
- ・挿し穂の形状に関しては、基部断面径と発根の有無及び葉数と発根の有無の間に統計的な差はみられなかった（図3）。
- ・発根に影響した要因は、挿し付け時期や母樹の違い（図1）よりも、5月挿しの隔日灌水で5母樹とも発根率が高かった（図2）ことから、水やりの頻度による影響が大きいと考えられる。クマノザクラは尾根沿いや中腹の広葉樹林に多くみられることから、過湿な土壌を嫌う可能性がある。
- ・以上の結果から挿し木増殖する際には、発根しやすい母樹を選び、5月に挿し木を行い、隔日灌水（夏期以外）することで発根率を高められると考えられた。

発根率 (%)

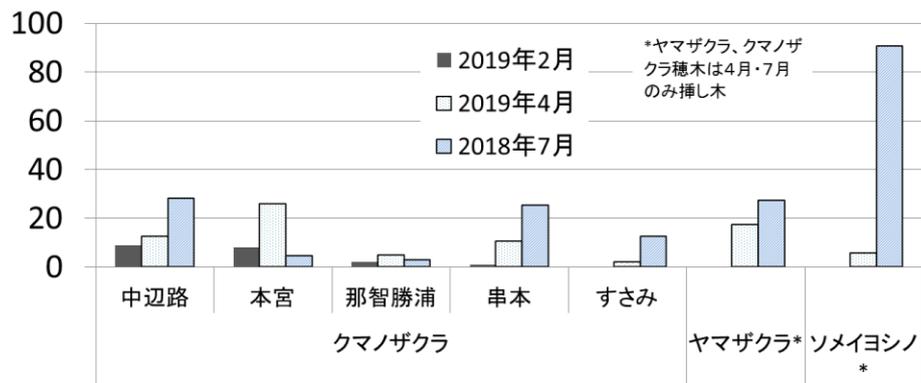


図1 挿し付け時期による違い

発根率 (%)

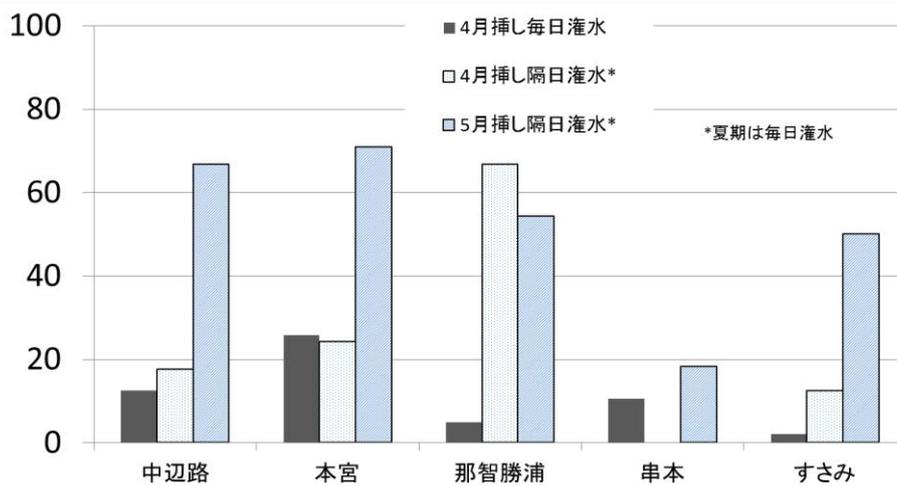


図2 水やり頻度による違い

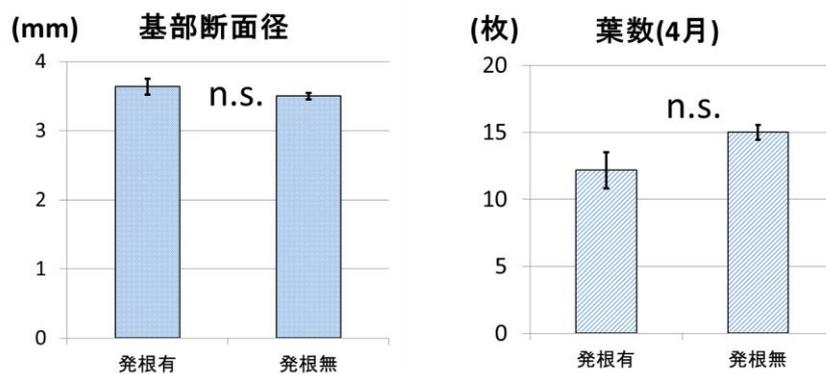


図3 挿し穂の形状による違い

n.s.は t 検定による有意な差がみられない事を示す(P>0.05)

エラーバーは標準誤差を示す